

麻疹発生時の対応について（保育園・幼稚園・学校のために）

キーワード

- ◎様子をみましょうは禁句！
- ◎ひとりの患者がでたらすぐに対応！
- ◎教育・保育の現場と、医療機関と、行政が手を組めばできます！

* 普段からしておくべきこと

園児、児童、生徒、職員の「麻疹罹患歴、麻疹ワクチン歴」を常に把握し、未罹患で未接種者（1歳未満を除く）にはワクチン接種を勧奨する

入学、入園時、職員の就職時にチェックするのは当然ですが、その後、未罹患で未接種者がきちんと接種していることを確認しなくては意味がありません。専門家のお話をうかがっても、「麻疹が流行しているので未接種の方は接種してください」というような全体へのお知らせではあまり効果がないので、

「個別の勧奨」がぜひとも必要だということです。もちろん、拒否的な態度をとる保護者もいることはわかります。クレームも寄せられるでしょう。しかし、学校や園の先生がたにその必要性を認識していただき、根気よく勧奨をお願いしたいと思います。

※なお、乳児の麻疹予防接種については、任意接種ではありますが、流行状況により接種してくれる医療機関があります。かかりつけ医や近隣の小児科に問い合わせいただくとよいと思います。通常は9ヶ月以上、流行期は6ヶ月以上のお子さんに任意接種が行われることが多いです。

20代の職員は2回目のワクチン接種がおすすめ

どの職場にも、若い人材がいます。これらの年代は小さいころに1回だけの予防接種をした人がほとんどです。未罹患未接種の人だけでなく、このような人もできる限り2回目の予防接種を受けるように、配慮できればと思います。特に保育園など0歳児と接する職場では今後は必要になると思います。なお、学生の保育実習など長時間保育室に滞在するときにも注意が必要です。学生の接種歴、罹患歴などの調査も普段からしておくようにしてください。

*** 発生時の対応**

◎麻疹患者が1名発生した時点で、直ちに対応する！

◎様子を見ましようは禁句！

《 校内（園内・所内）麻疹発生状況の確認 》

欠席者を把握し、欠席理由が麻疹であるかどうかを確認してください。なお、麻疹の診断は初期はかぜと区別ができないので不可能なことが多いので、欠席が続く場合は必ず追跡調査をしてください。発熱する前日（おそらく登園登校しています）から感染力がありますから、そこでも感染が起こる可能性を考慮してください。麻疹の潜伏期は、10～12日ですので、発症の危険がある日もある程度計算できます。

《 患者と濃厚接触者への対応 》

濃厚接触者（比較的長時間同じ部屋にいたような人）の範囲を明らかにしてください。また、接触後72時間以内であれば、麻疹ワクチンの接種により感染を予防できる可能性があるのでできる限り早く知らせてください。

《 感染拡大防止策 》

◎園児、児童、生徒、職員に対して（職員もですよ～！）

1. 麻疹の発生状況を周知

麻疹に関しては「隠さない」ことを原則にリアルタイムで発生状況を周知してください。

2. 毎朝の自宅検温

37.5℃以上の発熱を認めた場合は、必ず理由を報告の上、欠席するように指導してください。（これは学校長の判断で「出席停止」になり、「欠席にならない」ようにすることができるので、そのことを保護者に伝えて理解を得てください。）職員に対しては、必ず休暇を取得するように指導してください。

なお、既感染者や、明らかに高い抗体を保有している者についてはこの限りではありません。

3. 麻疹ワクチン未接種者への再度の勧奨

麻疹ワクチン未罹患で未接種者（園児・児童・生徒及びその家族）については、麻疹ワクチン接種を強く勧奨してください。

4. 緊急接種の機会提供

麻疹ワクチン未罹患で未接種者への麻疹ワクチン接種の機会提供は、必要と判断したら感染が拡大してからではなく、極めて早期から検討してください。

※ 学年行事、全校（園・所）行事の延期を検討

麻疹は、同じ空間に多くの人が集まれば、感染源がひとりであっても感染がさらに拡大します。一同に会するような行事は延期したほうが無難です。例えば体育館で朝礼をしただけでも、広い範囲に感染が拡大する可能性があります。

◎近隣の医療機関に対して

感染拡大防止策は、ひとつの施設（学校、園）だけにとどまりません。ぜひ地域全体のことを考えて、医療機関に対して情報をオープンにしてください。医療機関では受付時にトリアージ（患者さんを必要に応じてすぐに隔離する）しなければ待合室で感染が拡大して大変なことになります。

●●小学校の患者さんで、まだ麻疹のワクチンが済んでいない方は
すぐに受付にお申し出ください

というような掲示もお許しいただけるようにご配慮いただければ、医療機関としては地域の感染拡大を防ぐ上でかなりの効果を期待できます。

なお、市役所等を経由しての情報伝達では遅いことがありますので、地域の医師会との緊密な連携（例えば園医・校医に近隣の医療機関への伝達を依頼するなど）もあらかじめ申し合わせていただくと良いと思います。

◎症状がある園児、児童、生徒、職員に伝えてほしいこと

毎朝検温して、37.5℃以上の発熱があるときは、園や学校を欠席し、医療機関を受診するように勧奨してください。なお、「速やかな受診」をお願いしていますが、病初期に極端にあわてる必要がある病気ではないので、まずは電話で医療機関に「校内で麻疹が流行していることを医療機関に伝えた上で、受診のしかたについて指示をもらうように」としてください。特に小児科には乳児がたくさん来院しています。乳児は予防接種をしていません。その子たちにうつしたら大変なのだということをわかりやすい言葉で説明してください。また内科ならば気にしないでよいかというと最近では免疫の落ちている人も多数来院されますし、大学生ぐらいでも麻疹の抗体が落ちている人もいます。いずれにしても、**まず電話をしてから受診**ということを徹底してください。それでも気にせずに普通に受診してしまう人がいるので、前述のような掲示が必要になることがあります。

※たとえ、ワクチンが不足し、未罹患、未接種者へのワクチン接種が速やかにできない最悪の状況下であっても、「地域でこれ以上の感染の拡大を防ぐための方法」はあるわけですから、冷静に対応してください。